

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | | | | | |
|------------------|--|------------------|-------------------|---------------|----------------|
| 学校名 | 武雄市立橋小学校 | | | | |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 学校評価のアンケートでは、全体的に中間評価よりも最終評価の方が高評価となっている。感染症対策のため、行事の見直しを行い目的や方法について丁寧に知らせてきたので、学校の方針をよく理解していただいた結果であるとする。臨時休業に備えて、リモート授業にも対応できるように体制づくりをしたことが、家庭での自主学習の取組とICTの活用力アップにつながった。 志を高める教育として掲げている「ときわっ子体験活動」については、90%以上の児童が、学習した内容が自分のためになったと回答している。しかし、今年度は十分な体験活動ができず、「体験活動を通して、郷土について学びを得た」とは言い難い。次年度は、校内研の方法を工夫し、真に郷土について学びを得たと実感できる体験活動を計画・実施したい。 | | | | |
| 2 学校教育目標 | 生きる力を身に付け、学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ ときわっ子の育成 | | | | |
| 3 本年度の重点目標 | 了、確かな学力を育む教育活動の推進 | イ、豊かな心を育む教育活動の推進 | ウ、健やかな体を育む教育活動の推進 | エ、特別支援教育活動の推進 | オ、幼・保・小・中連携の推進 |

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

| (1)共通評価項目 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|--------------------|---|--|---|-------------|---|--|---|
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| | | | | ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 ○基礎学力を含む知識及び技能の定着を図り、活用力の向上を目指す。 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ・市販テストにおける「思考・判断・表現」の得点が、全国平均を上回る児童が60%以上。 ・保護者アンケートの基礎学力向上の成果で「そう思う」回答60%以上。 | ・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・テストごとに達成度合いを調べ振り返る。 ・各学級での取組を保護者に保護者面談や学級通信等で周知する。 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ●豊かな心についてのアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が85%以上(児童アンケートにて) ●いじめ防止について、教師の組織的対応ができたと回答する職員が、80%以上(教職員アンケート) | ・道徳の授業の充実 ・年2回の道徳強化週間の設定(教師相互の授業参観) ・道徳的掲示板「ときわの木」の充実 ・いじめに関するアンケートや学期に一回のQ&Aアンケートを実施し、児童の状況把握に努める。 ・毎月の児童支援連絡会で気になる事案等について共通理解を図る。 | B | ・人権集会と人権の花感謝状贈呈式が重なったことで、これまでよりも人権意識が高まった。 ・「ときわの木」は、年2回程度重点的に取り組んだ。強化週間以外でも継続的に取り組んでいきたい。 | B | ・人権意識が高まっていることは良かった。 ・心の教育の取組は、単発的な取組や強化週間だけでなく日常の継続した取組も必要に思う。 |
| ●健康・体づくり | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ○体育的行事や健康委員会による活動の充実 | ●「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上(児童アンケート) ・「好き嫌いをせず食べている」と回答した児童が80%以上。(児童アンケート) ●体力テストで全国平均を上回った項目が70%以上 | ・生活科、総合的な学習の時間における体験活動についてのアンケートを実施し、児童の姿容を考察する。 ・学期末に、教職員へのアンケートを実施する。 ・児童に食育標語を書かせ食に関する興味・関心をもたせることで、食事の重要性や感謝の気持ちを育む。 ・給食委員会の活動として、給食の月目標や季節行事や行事に関わる「食」についての情報発信。 ・健康委員会によるスポーツチャレンジの実施や外遊びの奨励。 ・運動会や相撲大会では、日々の声掛け等で競争意識をもたせ、積極的に取り組ませる。 | A | ・9~1月の平均残業時間は24.14時間であった。 ・時間外在校等時間は職員により差があるので、業務の標準化を図る必要がある。 | A | ・これからは地域と共に「ときわっ子」の育成に協力してける学校づくりを目指してきたい。 ・児童のアンケートの中で、野菜作りや田んぼの学校、ごみ拾いなど地域の方とのふれあいで体験できたものは、心の残り感謝の気持ちを持って育てる良い経験になっている。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○学校行事や会議等の精選・効率化の推進 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間(月45時間、年間360時間)の上限を遵守する。 ●職員会議のペーパーレス化による効率化を図り、20%の時間短縮を実践する。 | ・児童に食育標語を書かせ食に関する興味・関心をもたせることで、食事の重要性や感謝の気持ちを育む。 ・給食委員会の活動として、給食の月目標や季節行事や行事に関わる「食」についての情報発信。 ・健康委員会によるスポーツチャレンジの実施や外遊びの奨励。 ・運動会や相撲大会では、日々の声掛け等で競争意識をもたせ、積極的に取り組ませる。 | B | ・会議は各回予定時間内に終わることができた。 ・教育活動や行事の精選については、感染防止と教育効果の両面から吟味しながら実施した。活動自体はスムーズであったが、実施に至るまで複数回延期したり、規模縮小したりするために、協議の時間を多くとらねばならなかった。 | A | ・食育に関する項目が高評価である。 |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|----------------------|-------------------------|--|--|---------------|---|----------------------------------|--|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| | | | | ○幼・保・小・中連携の推進 | ○授業参観及び合同研修会の実施 | ○武雄中学校区内の小中学校への授業参観及び研究会への参加100% | ・幼保及び武雄中学校区小中学校職員との情報交換を通して、基本的な生活習慣および学習指導などの連携を図る。 |
| ○特別支援教育活動の推進 | ○特別支援教育研修及びケース会議の充実 | ○特別支援に関する専門性が向上したと認識した教職員が70%以上(研修後のアンケート) | ・交流学級と連携を図り、教師の専門性を高めるための特別支援に関する研修会の実施。 ・ケース会議の実施、情報交換 | B | ・生活面において気になる児童を対象として、ケース会議を実施した。福祉課や児相とも情報を共有した。 ・次年度に向けて、情報を提供してもらいながら個々の進路について話し合いをし、市の就学支援会議を受けて保護者の理解を得ながら進路を決定することができた。 | B | ・特別支援教育活動の推進については来年度期待する。 |
| ○時代のニーズに対応した教育の推進 | ○情報モラル教育の充実 ○防災教育の充実 | ○情報モラル教室後のアンケートで、「個人情報の取り扱いに気を付けるべき」と回答する児童70%以上。 ○防災講座・集団下校後のアンケートで、「防災意識が高まった」と回答する児童70%以上。 | ・情報モラル教室を3~6年生を対象に行う。 ・道徳科の情報モラルを題材にした教材を各学級で取り扱う。 ・地域消防団を講師とする防災講座を全校児童を対象に行う。 ・定期のほか、警報発令時に集団下校引率を行う。 | A | ・各学級、情報モラルに関連した題材での道徳科の学習を行い、学年に応じた指導を行うことができた。 ・授業以外の場でもそれぞれの教員が適宜情報モラルに関連した指導を行い、リモート授業などで児童が自由の多い中でタブレット端末を使用する機会が増えたが、適切に使用することができた。 | A | ・家庭の協力も不可欠なため育友会活動の中でも学校と協力して啓発し取り組んでいかなければと感じた。 |
| ○家庭・地域との連携強化 | ○育友会活動の充実 | ○保護者アンケートで「育友会活動に積極的に参加している」と回答する保護者90%以上。 | ・学校だより、学級だより、学校HP等を通じて、授業参観、育友会教育講演会などの行事を積極的に周知する。 | A | ・地震・火災避難訓練を行い、防災意識の維持継続を図った。 ・害獣出没情報をもとに、児童に対処法などを徹底し、身を守る意識を高めた。 | A | ・ |

| | |
|------------------------|---|
| ●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 | <p>5 総合評価・次年度への展望</p> <p>学校評価のアンケートでは、中間評価と最終評価にあまり大きな差はない。感染症対策のため、行事の見直しを行い目的や方法についてその都度知らせてきたので、学校の方針をよく理解していただいた結果であるとする。学級閉鎖に備えて、リモート授業にも対応したことが、家庭での自主学習の取組とICTの活用力アップにつながった。</p> <p>志を高める教育として掲げている「ときわっ子体験活動」については、90%以上の児童が、学習した内容が自分のためになったと回答している。しかし、今年度は十分な体験活動ができず、「体験活動を通して、郷土について学びを得た」とは言い難い。次年度は、校内研の方法を工夫し、真に郷土について学びを得たと実感できる体験活動を計画・実施したい。</p> |
|------------------------|---|